

IV 家内労働者の労働条件の現状 (出典:令和2年度家内労働等実態調査)

令和2年10月1日現在の家内労働者の労働条件の現状をみると次のようになります。

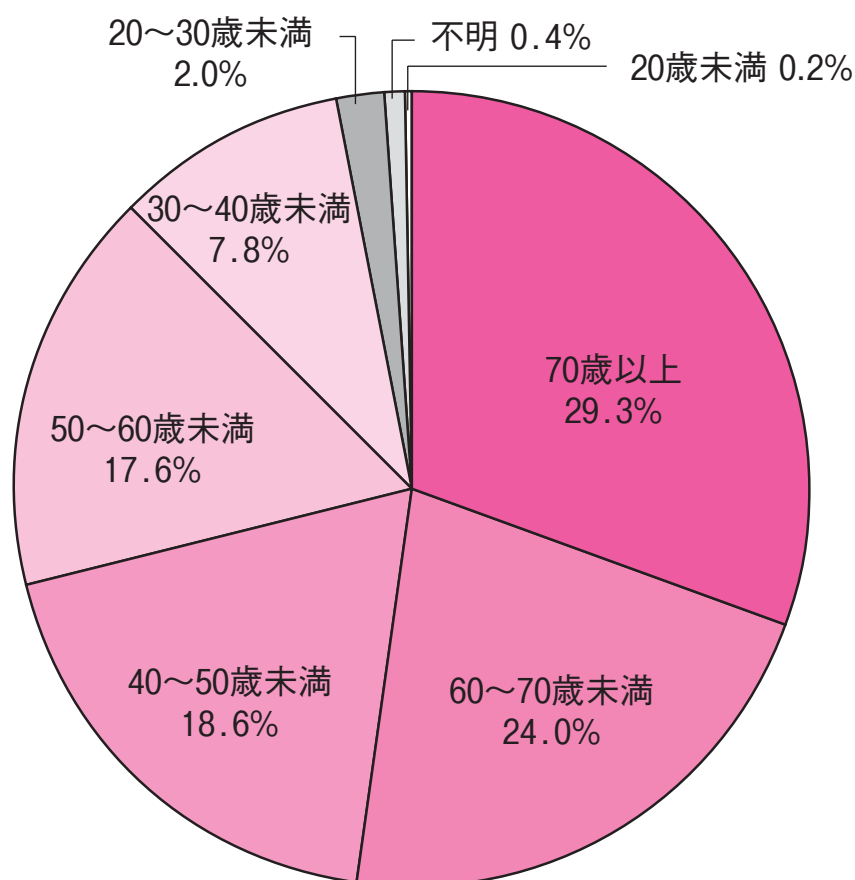
1 平均年齢は58.9歳、平均経験年数は11.6年

家内労働者の平均年齢は58.9歳で、これを男女別にみると、男性が65.3歳、女性が58.2歳となっています。

年齢階級別に家内労働者の構成比をみると、第1図のとおり、「70歳以上」が最も多く29.3%、次いで「60～70歳未満」が24.0%、「40～50歳未満」が18.6%と、これら3つの階級で全体の約7割を占めています。

また、家内労働者が現在の業務に従事してきた平均経験年数は11.6年であり、これを男女別にみると、男性は14.3年、女性は11.3年となっています。

第1図 年齢階級別家内労働者構成比



2 平均就業時間数は1日4.9時間、平均就業日数は1か月17.6日

家内労働者の平均就業時間数は、1日4.9時間であり、平均就業日数は、1か月17.6日となっています。

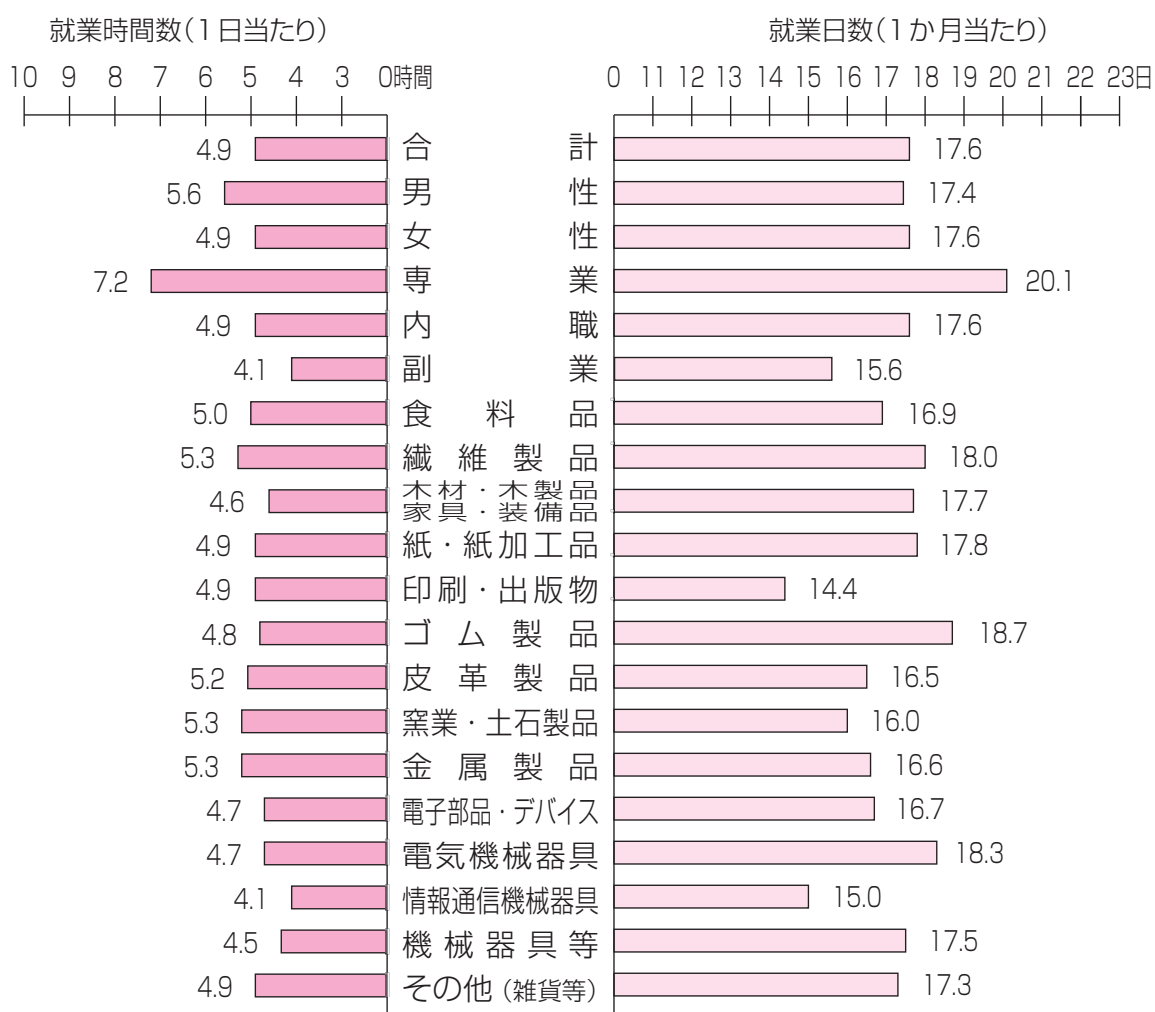
これを男女別にみると、男性の就業時間数は、1日5.6時間、就業日数は1か月17.4日であるのに対し、女性の就業時間数は1日4.9時間、就業日数は1か月17.6日となっています。

また、これを類型別にみると、専業は1日7.2時間、就業日数は1か月20.1日であるのに対し、内職は1日4.9時間、就業日数は1か月17.6日、副業は1日4.1時間、就業日数は1か月15.6日と、いずれも短くなっています。

次に、業種別に平均就業時間数をみると、「繊維製品」「窯業・土石製品」および「金属製品」が5.3時間と長く、「情報通信機械器具」が4.1時間と最も短くなっています。

また、平均就業日数をみると、「ゴム製品」が18.7日、「電気機械器具」が18.3日、「繊維製品」が18.0日と多く、これに対し、「印刷・出版物」が14.4日と最も少なくなっています。

第2図 男女別、類型別、業種別1日当たりの平均就業時間数
および1か月当たりの平均就業日数



3 平均工賃額は1時間520円、1か月3万7,320円

家内労働者の1時間当たりの平均工賃額（必要経費を除く。）は520円で、これを男女別にみると、男性が710円、女性が498円となっています。

これを類型別にみると、専業が729円、内職が495円、副業が748円となっています。

また、これを業種別にみると「窯業・土石製品」が778円と最も高く、次いで「金属製品」が677円、「皮革製品」が674円となっているのに対し、「木材・木製品、家具・装飾品」は374円と最も低く、次いで「食料品」が417円、「紙・紙加工品」が420円となっています。

次に、1か月当たりの平均工賃額（必要経費を除く。）は3万7,320円で、これを男女別にみると、男性が6万4,019円、女性が3万4,244円となっています。

これを類型別にみると、専業が10万5,651円、内職が3万4,187円、副業が2万7,858円となっています。

また、これを業種別にみると、「皮革製品」が6万2,693円と最も高く、次いで、「金属製品」が5万9,257円、「窯業・土石製品」が4万8,227円となっているのに対し、「木材・木製品、家具・装飾品」は2万3,520円と最も低く、次いで「情報通信機械器具」が2万5,703円、「紙・紙加工品」が2万5,967円となっています。

第3図 男女別、類型別、業種別1時間および1か月当たりの工賃額

